

テーマ	実態・課題（意見含む）	提案・考え（意見含む）	これからの姿（方向性）
望ましい学校規模	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状すでに小学校1校が全学年で1学年2学級となっているほか、5校において、一部の学年で1学年2学級となっている。10年後には、小学校4校が全学年で1学年2学級となる推計。 ● 1学年2学級の学校では、子どもの人間関係等を考えたときに、クラス分けによる解決が行い切れない。また、教員の所掌業務の負担が、規模の大きい学校より大きくなる。 ● 1学年2学級の学校で学年児童数が36人に近いと、1人減っただけで35人の1学級となり学習環境が激変することから、このリスクを避ける必要がある。 ● 1学年2学級では、経験年数や専門性とのバランスが取れた職員配置が行いにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1学年2学級だと、児童の人間関係や相互の評価が固定化されやすくなり、幅広い人間関係を築きづらくなる。教員の負担も考えると小学校は3～4学級が適正と考える。 ● 小学校の校長会も、3～4クラスが適正という意見。 ● 中学校は、最低でも12学級が必要。1学年4学級だと、1人の教員が学年をまたがって担当することが少なくなるため負担が少ない。 ● 教職員にとっては、経験年数、専門性等のバランスのとれた教職員配置がしやすく、教員の資質や多様性を活かせることができる規模が望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1学年当たりの学級数の考え方として、座間市としての望ましい学校規模は、小学校は1学年当たり3～4学級（1校当たり18～24学級）、中学校は1学年当たり4～6学級（1校当たり12～18学級）を望ましい規模とする。
通学距離・通学時間	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在の小学校区では、最長通学距離は座間小学校の2.2km。四ツ谷より45分かけて通ってきている。 ● 中学校の最長通学距離は、西中学校の2.5km。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 文部科学省の考え方では、小学校4km、中学校6kmまでが適正な通学距離とされているが、都市部とそうでない所のある座間市の特性を踏まえつつ、座間市としての基準があてい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 通学距離については、現在の市内の最長の通学距離（小学校約2.2km、中学校約2.5km）をおおむねの許容範囲とし、範囲を超える場合には、隣接する学区での選択制や中学校での自転車通学などについて検討する。 ● 基準は一律に適用するものではなく、学区外通学等の特別な事情がある場合には、柔軟に対応していく。
学校施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 座間市の学校施設は、築40年以上経過した施設が全体の約85%と老朽化が進行。今後、全校維持する場合、建替えまたは長寿命化改修によって教育環境を維持・向上すると、当面20年間では財政制約の3.2倍の費用が必要な見込み。 ● 40～50年前に建築した校舎は、ICT化や特別支援学級の増加、外国籍の子への日本語教育などは想定されずに造られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 築年数だけでなく、建物状況の現状把握をしっかりと進めて欲しい。 ● 教材の増加や学習用端末等のICT機器の導入が進んでいることから、教室や収納スペースの拡充が必要。 ● これからの施設には、省エネルギー化や脱炭素化等、環境負荷を低減する仕組みが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来求められる教育環境に対応できる整備水準を目指す。 ● 施設の更新にあたっては、施設の老朽化状況や将来の児童生徒数の動向を注視しながら整備順位を定め、無駄のない投資を行う。
プール	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校の水泳指導は、学校敷地外にある近隣の屋外市立プールを使用している。 ● 学校により市立プールまでの距離に差があり、プールが遠い学校では、徒歩移動が子どもにも教職員にも負担。 ● 市立プール11施設のうち8施設が築40年以上経過し老朽化が進行している。今後一斉に更新時期を迎えるため、今後の水泳指導に懸念がある。 ● 屋外プールでの水泳指導は、天候や気温の影響を受けやすい等の課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 試算では、市内に2箇所ある屋内プールを持つ民間スイミングスクールを活用することで、全小学校の現在の水泳指導を実施することが可能な見込み。 ● 予定日にプール指導を実施できないときは、子どもたちが授業に集中できなくなることもあるため、予定どおり実施できる全天候型施設はありがたい。 ● 民間プールで専門的な指導を受けられるのがよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後の座間市立小学校の水泳指導は、市立プールを使用せず、市内や近隣市の民間プールで実施していくこととし、段階的な移行により実現を図る。 ● 移行期間中は、市立プールの利用を併用する。
給食	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校の給食室は、校舎とほぼ同時に建てられていることから、11校中9校で老朽化が進行している。 ● 給食室は建設当時の整備水準のため、スペースや衛生基準が現在の整備水準に達しておらず、スペースの充実や新たな衛生管理基準への対応等を含めると、今後の維持更新費が高額になる。 ● 中学校は、アンケート等より全員喫食の要望がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食育の視点から小学校は自校給食を継続して欲しい。給食の楽しさや楽しさは人が成長する上で大切。 ● 中学校給食を全員喫食にすれば、新たな家を探す若い層の選択肢が増え、子育て世代の転入が増える可能性もある。 ● 給食を食べる環境について、教室のままなのか、食堂のようなものを設置するのか、引き続き検討して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校給食は自校方式を継続する。校舎の施設更新があった場合には一緒に更新する。 ● 中学校給食は全員喫食を目指すこととする。センター方式等での実現の可能性を探る。

これまでの議論のまとめとこれからの姿（つづき）

テーマ	実態・課題（意見含む）	提案・考え（意見含む）	これからの姿（方向性）
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援学級の児童生徒数は直近20年で3.4倍増加し、ニーズが急増している。 ● 情緒通級指導教室は、市内を4地域に分け、各地域1か所の小学校に設けているが、他校からの通級者が10%しかおらず、支援の手が届いていない児童がいる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 言語通級は特別な設備が必要となり、保護者の送迎が必要となるので、どこからでも行きやすい場所への整備方針はいい。 ● 合理的な配慮に対する理解が進むにつれて対応が増えていくことが予想されることから、児童生徒数は今後もゆるやかに増えていくと考えられる。 ● 弱視や病弱級は、特別支援学校ではなく市立小中学校で対応して欲しいという希望も増えてくるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ● すべての児童生徒に必要な支援が行き渡るよう、引き続き対応する。 ● 情緒通級指導教室については、小学校全校での設置を目指し、中学校では、対象生徒が在籍する学校への巡回式による情緒通級指導教室設置についても検討する。 ● 言語通級指導教室については、対象の児童数が減少する場合、市の中心に近い学校に設置することを検討する。
少人数指導	<ul style="list-style-type: none"> ● 少人数指導、チーム・ティーチングは、児童生徒の状況や教員の配置状況等を考慮し、各学校が柔軟に取り入れている。 ● 少人数指導は一部の学校で行われているが、実施スペース確保の問題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学び方はこれまで以上に多様化していく。 ● 小グループや個別学習、学級の枠を超えた活動等、多様な学習形態が想定される。 ● フレキシブルに区切って使えるような1.5~2教室分のスペースを確保できるようにしておくが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 少人数指導をはじめ、多様な学習形態を取り入れて学習活動を展開できるように、施設の更新時には1.5~2教室分の多目的室（区切って活用可）を各階に配置する。
国際教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語指導のための国際教室のニーズは、過去3年で27%増加するなど、引き続き増加傾向にあり教室稼働率が高い。 ● 在籍数が増えた場合、担当教員の増加とともに使用する教室を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語指導のための教材や掲示物が貼ってある国際教室が1教室は必要。 ● 用途が決まっているなら、オープンスペースではなく、しっかり場所を確保した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語指導が必要な子どもが増えた場合には、施設の更新時に設置する1.5~2教室分の多目的室（区切って活用可）を活用し対応する。
教育支援教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内に1施設あり、市役所に隣接するサニープレイスに移転予定。 ● 令和5年度では11名が利用し、そのうち1名は小学生。小学生の見学希望者が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状はフリースペースや民間の支援団体と連携して選択肢を広げるべく調整している。 ● 現在の施設以外に、もう1つ同じような施設があってもいい。通いにくい中学生が通いやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間のフリースクール等との連携や、他の公共施設を活用した分教室等の確保についても検討する。
コミュニティ・スクール	<ul style="list-style-type: none"> ● 座間市では令和4年4月より市内の小中学校全校でコミュニティ・スクールを開始した。 ● 市が目指すコミュニティ・スクールは、学校、家庭、地域が子どもたちの豊かな心を育成するために連携・協働する「地域とともにある学校づくり」を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校運営協議会制度が始まって2年目で、学校と地域、地域の中の学校、学校の行事等に地域の人がかかわることを通して地域が活性化したり繋がることも既に出てきているが、5年くらい経過したら学校運営協議会が狙い通りになっていくのではないかな。 ● 地域から見たら、学校を核とした地域づくりとなっていくと思うので、学校は学校だけではなく地域の施設としても考えるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 休日等に活動できるよう、学校施設と区画や出入口を分けることが可能な活動拠点となるスペースを設ける。
他の公共施設との集約化・複合化	<ul style="list-style-type: none"> ● 座間市の公共施設保有量約25万㎡のうち、学校施設は約12万7千㎡であり、約半分を占めている。 ● 「ざましアセットマネジメント基本方針」では、小・中学校の方針として「多機能化や他の施設との複合化…などによる適切な利活用方策を検討」とあり、現状では小学校が児童ホームと複合化している。 ● 他の自治体では、学校施設と地域住民が使う施設を複合化している事例がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもを見てもらえる地域の方たちが学校に入り、その分学校にあるものを地域に提供できたらWin-Winの関係になるのではないかな。 ● 人口、経済が下降する現在では、学校を中心に公共施設を集約して、地域と密接に設計しなおさなくてはいけないと感じた。提示された様々なアイデアを、建替え等の際にどう組み込んでいくのが課題。 ● 一番気になるのは防犯。動線を完璧に分けるのは難しいので、「皆さんで地域の子どもを守ってもらう」という、利用者の意識向上も必要になるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校施設に地域に必要な機能を持たせて、地域に開かれた学校にする。 ● 学校で対応しきれない部分（施設管理等）を地域に移管したり、逆に地域に必要な機能を学校で提供するなど、お互いにメリットを感じられる複合化の組合せについて検討する。 ● 他の公共施設と複合化を行う場合には、区画や動線を分け、学校の安全管理に留意する。
教職員	<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員は、校務等の所掌業務負担が大きい。 ● 職員個人のスペースが職員室の机しかなく、教員同士での交流等ができる場が限られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 先生たちの職場として考えると、手直しして先生がほっとできる場があれば、子どもたちにもいい影響があるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流スペースの設置など、職場としての職員室の整備水準の見直しを検討。

(仮称) ざま魅力ある学校づくり方針の3つの柱

